メセナ市民交響楽団

第13回定期演奏会

マリアンネ・ベッチャー(ベルリン芸術大学教授)を迎えて

2026年 4/26(日)　開演 14:00 (開場 13:30)

メセナホール(須坂市文化会館)大ホール

一般 ¥1,000　学生 ¥500

指揮　村石 達哉 *Conductor : Tatsuya Muraishi*

オッフェンバック : 喜歌劇『天国と地獄』序曲
Offenbach : Overture to the Operetta Orpheus in the Underworld

ベートーヴェン : ピアノ、ヴァイオリン、チェロと管弦楽の為の
協奏曲 作品56 ハ長調
Beethoven : Concerto for Piano, Violin, Cello and Orchestra in C major, Op. 56
Piano 中野 孝紀　Violin マリアンネ・ベッチャー　Cello クリストファー・聡・ギブソン

シューベルト : 交響曲 第8番 ハ長調 D.944『ザ・グレート』
Schubert : Symphony No. 8 in C major, D. 944 "The Great"

■ 主 催　メセナ市民交響楽団　https://www.instagram.com/mecenat_citizens/
https://msoorchestra2011.wixsite.com/mesena
■ 共 催　一般財団法人 須坂市文化振興事業団
■ 後 援　須坂市　須坂市教育委員会　小布施町教育委員会　高山村教育委員会
■ プレイガイド　メセナホール(026-245-1800)
ヒオキ楽器本店(シャコンヌ)・中野店(シンフォニア)　美鈴楽器　浅井管楽器工房

作画 (染色) 木村 不二雄

村石 達哉（指揮 ）Tatsuya Muraishi (Conductor)

５歳よりヴァイオリンを始め、武蔵野音楽大学、同大学院、ベルリン国立芸術大学を首席で卒業。
伝田充正、金倉英男、ルイ・グレーラー、ヨゼフ・スーク、マリアンネ・ベッチャーのもとで学ぶ。18歳より読売交響楽団のエキストラ奏者として８年間室内楽奏法とオーケストラ奏法、また多くの偉大な指揮者と演奏を共にし、多くの事を学び渡欧。ベルリンでは学業のほかにボリス・ブラッヒャー・アンサンブルのソロ・ヴァイオリニストを務め現代曲の演奏法を学び、その演奏はドイツの音楽雑誌に「感動的な演奏」と取り上げられた。SFBラジオ第2放送、ドイツ、イタリア、スウェーデンにおいてリサイタルを開いた後、1995~96年にドイツのオーケストラ“エルプランド・フィルハーモニー”の第１コンサートマスターを務め、集客力がなかった楽団を再生した。その後、惜しまれながらも退任し、ソロ活動に移りヨーロッパを中心にオーケストラと共演、音楽祭出演、客演指揮を行い1999年に帰国し現在に至る。バロック・ヴァイオリンの奏者としても研鑽を積み、中国ツアー、米国ツアーを行った。バロック音楽の視点からの作品の演奏解釈を行いアカデミックな表現法を試みている。またそれが認められ2013年にはインディアナ大学の招聘を受け演奏。2012年よりオーストリアのオツタールで夏に行なわれている音楽祭のマスタークラスの講師も毎年務めている。また2015年より毎年ベルリンでのリサイタルを再開し、2017年にはウィーン、グラーツのマスタークラスのヴァイオリン講師も務める。メセナ市民交響楽団の常任指揮者。後進を育てることにも意欲的で毎年コンクール入賞者を輩出、2021年にはベルギーで行われたレオニード・コーガン国際コンクールで２位と４位の２名の生徒が受賞している。

マリアンネ・ベッチャー（ヴァイオリン）Marianne Boettcher (Violin)

ベルリンの名門音楽家一家に生まれる。ベルリン芸術大学にて、カラヤン時代のベルリン・フィルを支えた伝説的コンサートマスター、ミシェル・シュヴァルベ氏らに師事。その後、ジュネーヴにて20世紀を代表する巨匠ヘンリク・シェリング氏のもとで研鑽を積んだ。
古典派からロマン派を得意とするその理知的かつ情感豊かな演奏は、欧米諸国で高く評価されている。同時に現代音楽の普及にも尽力しており、多くの著名な作曲家が彼女のために作品を書き下ろし、初演を託している。ベルリン芸術週間やドイツ合同バッハ祭、ポーランドのヴィエニャフスキ音楽祭といった名だたる音楽祭への客演、さらにアメリカ、ロシア、日本を含む世界各国での演奏ツアー、CD録音、TV・ラジオ出演など、常に第一線で活動を続けている。
教育者としても輝かしい実績を誇り、現在はベルリン芸術大学の名誉教授として後進の指導にあたっている。特筆すべきは門下生の圧倒的なコンクール実績であり、ドイツの登竜門「ユーゲント・ムジツィアート」では1999年から7年連続で門下生が1位を独占したほか、国際コンクールでも多くの優勝者を輩出。2003年にはその多大な功績を讃え、ドイツ連邦共和国功労勲章（十字功労賞）が授与された。現在、ポツダムの「音楽・文学ソワレーエン協会」芸術監督。
https://www.marianne-boettcher.de/index.html

中野 孝紀（ピアノ ）Takanori Nakano (Piano)

東京藝術大学附属音楽高等学校、東京藝術大学を経て同大学院修了。在学中に安宅賞を受賞する。その後渡欧し1994年ベルリン芸術大学を最優秀で卒業。その間ベルリンを中心に各地でソロ、室内楽演奏会に数多く出演した。1994年10月東京・津田ホールにてデビューリサイタル、NHK・FMの「土曜リサイタル」に出演。1996年カザルスホールでのリサイタルは「音楽の友」誌におけるコンサート年間ベスト10に選ばれた。以降、定期的に開催されているソロ・リサイタルは、毎回期待を裏切らない充実した演奏で高い支持を得ている。またソリストとしてオーケストラとの共演では、ベートーヴェン、ショパン、シューマン、グリーク、ラヴェル、チャイコフスキー、ラフマニノフ、プロコフィエフ、ショスタコーヴィチ、ガーシュインなどを演奏し、協奏曲のレパートリーも広い。他にヴァイオリン、チェロとのデュオやトリオなどの室内楽、歌曲伴奏者としても積極的に活動しており、数多くの共演者から絶大な信頼を寄せられている。2015年4月に行われた演奏活動20周年記念リサイタルでは、音楽に対する真摯な姿勢が高く評価され、音楽誌上において名演と賞賛された。ピアノを笠間春子、辛島輝治、園田高弘、エーリッヒ・アンドレアス、ジョルジュ・シェベックの各氏、室内楽をマリアンネ・ベッチャー、イラン・グローニッヒ、マンフレッド・シェルツァーの各氏に師事。
現在、東京学芸大学教授。

クリストファー・聡・ギブソン（チェロ）Christopher So Gibson (Cello)

アメリカ・ミシガン州生まれ。4歳よりチェロを始める。高校在学中に Tanglewood, Indiana University, Interlochen の夏期プログラムに参加。横浜インターナショナルスクール卒業後、２００５年に米イェール大学に進学、哲学・政治学を二重専攻。在学中、チェリストであるアルド・パリソット氏とのオーディションに合格し、ピエール・フルニエ氏の最若年の弟子であり、ヤーノシュ・シュタルケル氏の助手も長年勤めたイェール音楽院のオーレ・アカホシ氏にチェロを師事する。また、同音楽院のウェンディ・シャープ氏に室内楽を師事する。2009年、同大学FOMコンクールにて入賞。2012年冬、国際演奏家協会新人オーディションにてバッハ無伴奏ヴァイオリンパルティータ第２番の演奏で入賞した際、審査員の一人であるヴァイオリニスト川畠成道氏から「曲の世界に入り込むことの出来る演奏」という賛辞を受ける。2017年にはNPO法人Emotion in Motion主催のもと、“BACH Solo” 無伴奏チェロリサイタルシリーズをみなとみらい小ホール、ティアラこうとう(江東公会堂)、所沢ミューズ、サントリーホール「ブルーローズ」にて開催。ヴァイオリニスト川井郁子氏とテレビ東京「100年の音楽」番組収録やコンサート、BLUE NOTE TOKYO (2020), セルリアンタワー能楽堂(2019), 三越劇場 (2018)などで共演を重ねる。室内楽ではヴァイオリニスト村石達哉氏と長野を拠点として定期的に演奏会に出演。また横浜室内合奏団メンバーとして横浜開港記念館などの横浜公演に出演。詩人モーガン・ギブソン(1929-2017) の詩作と音楽を合わせた朗読と演奏も行なっている。東京、鎌倉、長野などを中心に活躍中。

メセナ市民交響楽団

「音楽が大好きな者同士が音を楽しみ、演奏を楽しみ、活動を楽しみながら団員相互の『絆』を大切にする行動の中で一人一人の資質を高め、その活動を通して地域文化の交流・発展に寄与したい」との理念で2011年4月に発足しました。年齢も職業も違う者同士がそれぞれ多忙の中、時間を作り、楽しみながら練習に励み、演奏では心を一つにして響きを大切にしたいと願っています。

“当団では団員を募集しています!!!”

月に３回、土曜日または日曜日に練習を行っております。ご興味のある方、ぜひご連絡ください。団員一同、心よりお待ちしております。

■メセナ市民交響楽団事務局　070-8477-3041
mso_orchestra@rakumail.jp
■https://msoorchestra2011.wixsite.com/mesena

作画 (染色) 木村 不二雄